

# 同友 やまがた

よい会社をつくろう／よい経営者になろう／よい経営環境をつくろう

10  
2015  
OCTOBER

山形県中小企業家同友会  
月刊 同友  
やまがた

30  
th



## 中同協 第43回 青年経営者全国交流会 in山梨

人は石垣 人は城 今こそ実践! 人間尊重の経営

### 新入社員フォローアップ研修

仕事に喜びを見つけよう

### 第3回 女性部例会開催

生き生きと働ける会社をつくるために就業規則を学び合う

山形同友会  
創立30周年!  
より地域に  
必要な存在へ!!

2015年度スローガン

# 人は石垣 人は城 今こそ実践! 人間尊重の経営

9月10日、11日、中同協第43回青全交が山梨県甲府市にて開催され、全国より1207名の参加がありました。山形からは5名が参加し、学びそして交流を深めました。

初日は15のテーマ毎に分かれての分科会と、懇親会が催されました。懇親会では11月19日、20日に開催する第27回社員教育活動全国研修交流会のPRを行いました。また、2日目は全体会として分科会報告、特別報告として中同協顧問の田山謙堂氏からのメッセージ、記念講演は山梨同友会の(株)フレアス 代表取締役 澤登 拓氏が、『『弱者集団』で高齢化社会に挑む～人に寄り添う介護の実践で日本一の会社に～』をテーマに講演しました。

「青年経営者全国交流会」の名前どおり若さあふれる中、本気で経営に向かいあい、悩みや問題課題の解決に全力で取り組む熱意が伝わってきました。

参加された皆様の感想をご紹介します。



## 第43回青全交in山梨に参加して

寒河江物流(株) 代表取締役社長 後藤智樹



私は、中同協の相談役でもあり、株式会社千代田エネルギー田山謙堂相談役が報告する第2分会に参加しました。何故かといいますと、一度でいいから「労使見解」発表に携わった田山さんの話を、なまで聞いてみたかったからです。

内容は労使見解が発表された頃の時代背景、同友会の方向性と自社の経営の取組等で、書籍「人を生かす経営(いわゆる労使見解)」の後半にある「人を生かす経営とは」のとおりなのですが、強調していたのは「実際の仕事を遂行する労働者の生活を保障するとともに、高い志気のもとに、

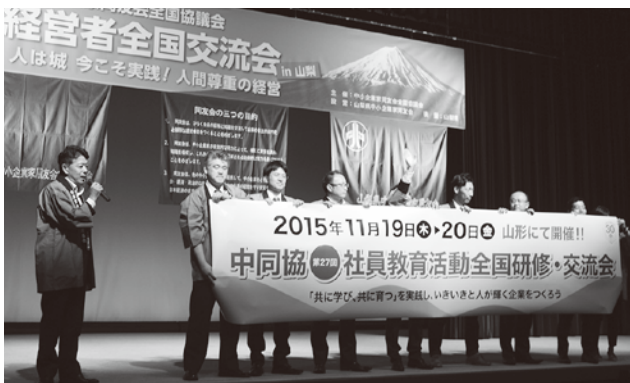
労働者の自発性が発揮される状態を企業内に確立する努力が決定的に重要」ということと「正しい労使関係」ということでした。

また、興味深かったのは、組合から春闘のときに出された要求書に対する回答書に、上部団体の書記長が「これは誰が作成したのか」と感心していたとのこと。もちろん、当時社長であった田山さんが自分で考え作成したのですが、要は問題に対して向き合い、出来ないものはできない、改善できることに関してはどのように進めていくかをきちんと説明して理解、納得をしてもらうこと。そしてビジョン、経営方針、いわゆる経営指針が大切だということです。

都合で、1日目しか参加することが出来なかったのですが、その当時、会員の半数に組合があり、中小企業でも総資本対総労働、賃金は一致団結して闘争で勝ち取るものという考えが総評で一貫していた時代に、「近代的な労使関係をつくる」をスローガンに運動していた同友会の中で、「労使見解」がどれほどの経営者の実感と汗にまみれた実体でつくられたものなのかを感じることができました。

## 第43回青年経営者全国交流会 I N山梨参加報告

田宮印刷(株) 常務取締役営業部門統轄 阿部和人



9月10、11日と青全交 I N山梨に参加し、分科会は「【事業継承】120年企業の革新～歴史は一步一步に新なる創造である～」に参加しました。

120年存続している建設資材販売の後継者のお話は、子会社ののっとり、赤字部門の再建の失敗など壮絶な内容でした。その中でも子会社がのっとられたのは「社員との信頼関係構築はどうだったのか」、赤字部門の再建失敗では「成果を出せば人は付いてくるだろうか」などの問題提起がなされ考えさせられました。

報告者は事業承継を前にして「事業承継後に指針を作成しては遅い。後継者のポジションのうちから作成し、プ

ラッシュアップしていくことが大切」とおっしゃられた事に強く共感しました。また社員アンケートで「夢」を書けない社員が数名おり、いつか全員が夢を書ける(描ける)会社にしていきたいとおっしゃっていたことが印象的でした。

グループ討論では「変えていけないもの、変えなければいけないものは何ですか」というテーマで学びあいました。「労働環境をより良く変えていきたい」や「下請けから脱却したい」などの話で深め合いましたが一番深まったのは「事業領域の再設定」でした。時代の要求や顧客の要求に答えるために事業領域を見直していかなくてはならない事を共通認識としました。まとめとして変えてはいけないものは「労使見解を軸とした経営のマインド」、変えていかなくてはならないものは「経営者自身(自己変革)」となりました。学びと気づきの多い分科会でした。



## 『全国大会参加のおすすめ』

(有)大山ボデー 専務取締役 佐藤知志



以前、「同友会に入ったなら、全国大会には参加したほうが勉強になるよ」と先輩会員から助言を受けたことがあります。

2年前の青全交に参加した際に、同年代の方の意欲的な姿を見て大変刺激になり、今回も参加させていただきました。

私は、第7分科会、社員が輝く企業づくりについて、埼玉県の欄吉田電工の吉田雄亮氏の『社員の声を聴いて謙虚に学ぶ』に参加しました。

「この会社に相談できる人はいません。」退職する社員から投げかけられた強烈な一言。売上も利益も過去最高。そんな中、10日で2人の社員が立て続けに退職し、会社都合だけの経営計画であったと気づかされたとのことです。

ポイントは、経営が自分のためになっていないか、社員のためになっているか？全社一丸が社長のための一丸になっていないか？でした。私は自らを振り返り学んだことは、社員へ感謝する、任せる、問いかけるの实践。そうすれば、社員の個性、仕事、役割の多様性が生まれる。また、社長は常に笑顔でいる。社長が指示を出すのではなく、社員から答えが出るのを待つ姿勢が必要。

今回も改めて全国大会に参加される方の、意識の高さを実感しました。よりレベルの高い実践の話が聞け、グループ討論でも同世代の経営者が頑張っている話を聞き、また全国大会に来たいなと思いました。ぜひ、みなさんにも参加されることをお勧めします。

# 新入社員フォローアップ研修 仕事に喜びを見つけよう

山形同友会は9月3日、新入社員フォローアップ研修を県産業創造支援センターで開催しました。

例年よりも1カ月早い開催となりましたが、20社から経営者、社員と合わせて54名が参加。5カ月間働いて、不安、失敗、悩みなどを語りあい、お互いの成長を確認することができました。将来のありたい自分の姿を描く2年後、10年後の目標シート作成にも挑戦しました。



## 自ら気づく場として

開会挨拶で、阿部委員長が経営者の方に「今回、目標シートの作成があります。どれだけ書けているかを見ていただき、社内に持ち帰り教育訓練の一つとして活用していただきたい」と述べ、「今回の研修も教えてもらうのではなく、自ら気づく場、学ぶ場です。そのことで行動に移せる」と新入社員に自ら学びとる姿勢の大切さを述べました。



## 失敗から学んだこと

はじめに、新入社員3名が5カ月間を振り返り、失敗から学んだ体験報告をしました。

吉田さん(朝日測量設計事務所)は、測量という重要な仕事をおし、完了報告後に間違いに気づき、膨大な時間をかけて修正した経験から、確認することの大切さを知ったと報告しました。

園部さん(田宮印刷)は、コミュニケーションの不安は、笑顔と挨拶を意識し、少しずつ相手から話かけてもらえるようになり克服。また、営業の1日単位、優先事項と案件のスケジュール長期管理の難しさ、確認の大切さに触れ、「失敗の多くの原因が確認不足にある」と、徐々に慣れてきている時期こそ、自分で確認する、まわりに確認してもらう重要性を報告しました。

児玉さん(カーサービス山形)は、先輩の仕事を見ている期間が長く、現場の仕事をしたと思う焦りを、「覚えることが仕事」と言われた。少しずつ先輩の補助の仕事させてもらえるようになった。現状に満足し甘んじていることを反省し、先輩と同等に仕事ができるようにもっと上をめざしたい。自動車整備士、検査員などの資格を取り、確かな仕事をしたと語りました。

## 人間は仕事の中で成長する



講義は、㈱エツキ 代表取締役社長 早坂幸起氏が、「好きこそものの上手なれ」と題して講演。

「4月にお話しましたが、採用していただきありがとうございます。入社していただきありがとうございます」の気持ちがありますか」との問い掛けから始

まりました。

今の仕事が嫌になるときがある。その時、気持ちを変えることで好きになれるといいます。植物学者であった昭和天皇の「雑草という草はないのですよ。どの草にも名前はあるのです」とのお話を紹介し、すべての植物に名前があるように、仕事にも雑用はなく、一つ一つの仕事に意味がある。仕事の先に何が見えるか。その先には、お客様がいて、誰かが喜んでくれる。誰かの役にたっていることを知り、心を込めてやれば仕事の質が変わると語りました。

誰もが辛い時を経験します。その辛い時が成長している時。辛くても、もうひと踏ん張りしよう。仕事を楽しみ、人間的な成長を楽しもうと語りかけ、人は仕事で磨かれ、組織で鍛えられることを強調しました。

今日の研修に参加できたことをはじめ、多くのひとの助けで生きていることに感謝し、感謝を知ることが大切だとまとめました。

## 2年後、10年後の目標を描く

2回、グルー討論が行われ、10年後目標シート作成にも挑戦しました。約5カ月間を振り返り、不安や悩みを共有することができ、お客様からの「ありがとう」や先輩や上司に「どうだ、慣れたか」と声をかけてもらったことで、仕事の喜びを実感していました。

将来の自分を描くには、技術力や資格取得などの目標をかかげると同時に、目標とする先輩や上司の存在が大きい。今後の社員の成長は、これからの社内の取り組みにあることを確認しました。

## 第3回 女性部例会

# 生き生きと働ける会社をつくるために就業規則を学び合う

9月17日、山形県産業創造支援センターに於いて第3回女性部例会が開かれました。今回は「働きやすい職場環境をつくろう」と題して、社会保険労務士法人西塔事務所 代表社員 西塔秀幸氏(社会保険労務士)を講師に迎え、就業規則について学び合いました。

はじめに挨拶に立った庄司薫副会長は、「今年度の女性部のスローガンは“生き生きと働ける会社をつくろう”です。そのためには労働環境を整備し、ワークライフバランスの推進が必要です。まずは皆さんで就業規則の基本を学び合しましょう」と述べました。

講義の冒頭、西塔氏は「労働基準法は守らなければなりません。労働基準法に違反した就業規則は無効になります。労働者の側には多種多様な要望があるのは当然のことです。だからといって、ものわかりがいい社長がよいとは労使見解では言いません。労使間のトラブルを防止し会社を守るため、法律に対応した就業規則を作成することが大切です」と語りました。

そして、就業規則の36のチェックポイントを説明しました。その中で就業規則の適用範囲では勤務の態様が通常の従業員と異なる者については、別規定を定めることが出来るが、「別規定を定める」としておきながら、それを作成していない場合、正規従業員の就業規則が適用されることもあると語り、参加者は驚くと同時に自社の就業規則の確認する必要



性を実感しました。

また、マイナンバー制の導入によって就業規則に付け加えるべき点として、採用時の提出書類の項目や個人番号の利用の項目などの規定例を紹介しました。

質疑応答を交えながらの講義に参加した男性経営者からは「女性部例会は二回目の参加だが、自分が学びたいことが学べる。こんなに良い会に参加しないのはもったいない」との声も挙がりました。

最後に赤塚副会長が「今、就業規則の作成に取り組んでいるが、あまりにも知らない事が多いと感じている。就業規則という一つのルールを決めることで、社員に対して誠実な対応ができるかと思っています」と語り、働きやすい環境をつくるために自社の就業規則を見直していくことを提起しました。

### 第3回女性部例会に参加して

(株)フロット 取締役 五十嵐久仁子

自社には、当たり前のように昔から就業規則がありましたが、社員時代には滅多に見ることのないものでした。管理職になり、さらに経営者になると、就業規則を見る頻度が格段に増えています。現場から上がる苦情や要望に、何らかの答えを出すときには、その場しのぎや公平性を欠かないように、就業規則に立ち返っています。

ただ、私自身がこの策定に関わった訳ではないので、な

ぜこのような規則になっているのか、それが法に基づくものなのか、経営判断によるものなのか、など、今日の部会では、規則の根拠に目を向ける機会となりました。チェックをしながら、埋まっていない隙間を見つけ、労使両方に良い規則を目指します。素晴らしい資料も提供頂き有難うございました。

(有)長門屋 代表取締役 笹林陽子



「就業規則は予防的なものである。」という先生の解説がとてもしっかりやすかったです。何かが起こった時、「就業規則はどうなっているか」が問いただされるわけですが、そ

の時点でちゃんとしておけばよかったと後悔しても、あとの祭りということになります。私自身見直しの必要を感じつつ、つい目の前のことを優先してしまい、先延ばしにしてきました。

いざというときに、就業規則が不整備なために会社が弱っていくようなことがあつては誰も幸せになれないのですから、よい会社にするため、みんなが幸せになるためどうあるべきかという視点を持ち、もっと関心を持って知らなければならぬと思いました。

10月  
増強月間

# 500名をめざして ～会員増強への協力をお願い～

## 『同友会は良いところ』 だから誰かに伝えたい！

組織委員長 安藤昌則



これを見られている会員さんは、『誰の紹介』で同友会を知ったのでしょうか？

また、何人から同友会への誘いを受け入会されましたか？

社員さんのことや後継者のこと、あるいは先が見えず悩んでいた時でしたか？

会員の皆さんならご存知の通り、同友会には3つの目的があります。1つがよい会社をつくる。2つ目がよい経営者になる。3つ目がよい経営環境をつくるです。単なる異業種交流の場ではなく、まじめに経営を学ぶ組織です。同友会は社長の学校と言われますが、まさしく私のターニングポイントにもなっています。

今、立派な経営をされている社長を見ても、過去には幾多の困難な問題を乗り越えてきた方が多く、例会での体験報告には沢山のヒントがあります。同友会では『共育』という共通用語があり、会員同士が気楽に相談できる組織なのです。こん

な同友会を私は大好きなのですが、皆さんは如何ですか？

中小企業憲章が閣議決定されてからは、マスコミへの露出も年々増えると共に行政からの期待も高まり、全国的には過去最高の会勢となっています。

山形県の企業数に対しての同友会会員比率でみると3%程ですが、お隣の福島県は10%近い組織率です。福島県と比較すれば、まだまだ仲間を増やせる恵まれた環境かと思えます。

総会で掲げた目標は、30周年記念式典まで500名必達です。貴方が同友会を勧められたように、一緒に頑張っていきたい会社やよくなってほしい会社の経営者さんを是非ご紹介して下さい。

10月は増強月間でもあり、例会にはゲストを連れて参加されることを期待しています。仲間を一人でも多くし自分の街を元気にしましょう。

### 2015年度各支部目標

支部名	9月会員数	目標数
山形	206	230
寒河江	56	65
さくらんぼ	50	65
置賜	54	60
庄内	53	65
新庄最上	19	30
合計	438	515

# 10月例会のご案内

・どの支部の例会にも参加できます。・月に一度は参加しましょう。

## 山形支部

### 全員参加の経営をめざして

～「経営理念とは違う」から始まった「経営者の責任」の自覚～

2015.10.22(木)18:30～

場所：山形テルサ 2階 リハーサル室  
山形市双葉町1-2-3 ☎023-646-6677

報告者：(株)朝日測量設計事務所 代表取締役 小林敏郎氏

同友会入会後、社員共育委員会に所属。「よい経営者になる」と自ら学び、社員一人ひとりが仕事を通じて人間の成長ができる企業をめざしてきました。手応えを感じ始めていたある日、「経営理念では全員参加とおきながら現実とは違う」という指摘を受けた小林氏は「なぜ?」と悶々と悩みます。そして、企業変革支援プログラムを全社員で取り組んだ結果、社員とのギャップが浮き彫りになりました。ギャップを課題として捉え、社員と共にインターンシップをはじめ様々な取り組みをスタートし、社員と一体感のある企業づくりをめざしています。

「社長という立場の自分の一言の影響の大きさと責任を痛感している」と語る小林社長の実践報告を基に、経営者と社員のギャップをどう埋めていくかを考え合います。

## 寒河江支部

### わかっちゃいるけどやめられない

～自己変革のススメ～

2015.10.26(月)19:00～

場所：寒河江市技術交流プラザ  
寒河江市中央工業団地153-1 ☎0237-86-1991

報告者：(有)鏡畳店 代表取締役 鏡芳昭氏

大きな外部環境の変化の中で、「自社も変わらなければならない」と考える経営者は多いはず。しかし、いろいろなセミナーを受講して一時は変革への意欲に燃えても、結局はいつもの自分に戻ってしまい、意欲が長続きしない自分にならざるを得ないことがあるのではないのでしょうか?

衰退産業と呼ばれる量業界の中で、次々現れる様々な困難を「超えなければ次へ進むことができない壁」と言い切り、逃げることなく正面から向き合い、一歩ずつ歩み続けてきた鏡社長。

仕事を通じ、自分と向き合うことに挑み続ける鏡社長の報告に「自己変革」に必要なこととはどんなことなのか?ということ学び合います。

## さくらんぼ支部

### 地域と共に歩み続ける企業をめざして

2015.10.29(木)18:30～21:00

場所：村山市民会館 2F 大会議室  
村山市楯岡笹田2丁目6-1 ☎0237-53-3111

報告者：(株)丸徳ふるせ 代表取締役 菅 徳嘉氏

明治時代に創業者の徳さんが、馬具、荒物屋として事業を始め、その時代に必要なものを商売とし、最上町で100年以上続いている。現在、住みいる館、燃料販売を柱に商品アイテム数が3万と、住民の生活にはなくてはならない企業となっている。

主力商品は燃料。その約6割が化石燃料で、価格決定権がなく経営維持を考えるとこのままではいられない。事業存続をかけた新しい事業の転換を考える。

菅氏が社長に就任して10年。新たなエネルギー部門、木質ペレット事業への挑戦が始まり、2014年に「ペレットマン最上」を立ち上げた。もともと最上町は、薪ストーブが主流で、まわりが山で資源は山ほどある。しかし、「油を売らずに何をやっているのか」との声に、社員を口説くのに、1年半かかったという。

今年、オーストリアを視察し、再生可能エネルギーを生業とすることに、覚悟を決めた。

物売りから、「丸徳ふるせには、何かあるねと言われるような会社になりたい」と語る、菅氏の報告に学びます。

## 置賜支部

### これからの変化に備え、対応して生き残る会社になろう

～BCP計画(事業継続計画)を中心に～

2015.10.27(金)18:30～21:00

場所：伝国の社  
米沢市丸の内1-2-1 ☎0238-26-8000

講師：税理士法人豊 代表社員 土田一成氏(税理士)

2015年度置賜支部のキーワードは「備える」「生き残る会社」です。これから予想される変化に備えて、しっかりした対策と準備が大切です。

東日本大震災以降、自然災害等の緊急時に事業継続と早期回復のため、平常時に方法と手段を決めておく「BCP計画」の必要性が高まっています。

10月例会では土田一成税理士を講師に迎え、生命を守るには?仕入ができなかったら?売上が大幅ダウンした時のための資金は?企業存続のため、平時からの対応を考え合います。お問い合わせの上、ご参加ください。

## 庄内支部

### 地域に応援される企業になるために…

2015.10.20(火)18:30～21:00

場所：酒田市民中央公民館  
酒田市民中央西町2-59 ☎0234-24-2991

報告者：(株)大商金山牧場 代表取締役社長 小野木重弥氏

「元気のみなもをつくっています」がモットーの、(株)大商金山牧場 小野木社長の報告です。「銘柄ポーク好感度コンテスト」グランドチャンピオンを受賞するほどの会社ですが、当時は思うように業績が伸びず経営者としての悩み、苦しみを抱えていました。そんな時に「同友会」そして「経営指針をつくる会」と出会いました。業績も安定し、「自社が地域でどういう責任をとっていかなければならないか」を考え、実践しだすと大きく会社が変わりはじめました。「グローバル企業だけグローバル企業、ローカル企業だけローカル企業」と印象深い小野木社長の言葉には、深い信念が感じられます。「今回の報告はありのままの自分を出します」と言う小野木社長の報告に、学び合います。

## 新庄最上支部

### 「同友会での学びが会社を変える！」

2015.10.22(木)18:30～21:00

場所：新庄市民プラザ  
新庄市大手町1-60 ☎0233-22-4200

報告者：(株)ティスコ運輸 代表取締役 菅原茂秋氏

2000年に運送業を創業。会社を良くしたいとがむしゃらに頑張ってきたあるとき、「本当に地域に必要な会社になっているのか?」と疑問を持ちます。

同友会に入会、そして経営指針セミナーを受講して、多くの学びと気づきがあったと語る菅原社長。しかし、学んだだけでは会社は良くなりません。その学びを自社の経営にどう活かすのか?会社の規模や売り上げも急成長する中、山形同友会山形支部幹事・経営指針委員長、そして副代表理事を歴任してきた菅原社長。これまでの同友会活動で何を学び、どう実践し、いかに経営に結び付けきたかを報告します。皆様お誘いあわせのうえご参加ください。

# 第6回理事会報告

◆日時: 9月9日(水)午後2時~午後4時 ◆会場: 山形ビッグウイング 402会議室 ◆議長: 菅原副代表理事  
◆出席: (敬称略) 青柳等、阿部和人、阿部秀顕、安藤昌則、伊藤誠、越前屋忍、大場賢二、奥山正樹、川合勝芳、小林敏郎、佐藤松雄、庄司薫、菅原茂秋、高橋明、玉津弘之、若木義寛 事務局伊藤、矢作、高橋

## ■開会挨拶(青柳副代表理事)

今回の理事会は、会員増強の取り組みが大きな議題です。積極的な議論をお願いいたします。

## ■報告事項

- 1) 経営労働問題全国交流会(8/20~21 鳥取) 参加者: 菊池氏、野口氏、成澤氏 事務局より、「経営指針作成の手引き」改訂版(第2次案)への意見集約(10月末)の依頼があった。
- 2) 中同協組織強化・広報・情報化全国交流会(8/26~27 東京) 参加者西塔氏(1日目)、安藤氏
- 3) 中同協・社員共育・共同求人合同委員会(8/27 東京)の報告 参加者の阿部氏、玉津氏、事務局伊藤のそれぞれから報告があった。
- 4) 地域活性化委員会・常任理事会(越前屋理事) 日本政策金融公庫山形支店(岡課長)との顔合わせ会(9/2) 常任理事会前の時間に、代表、副代表、専務理事、地域活性化委員会の越前屋委員長、事務局伊藤が出席。国の金融機関であり、行政や企業の関わりが強い。今後、地域活性化委員会、食・農部会と一緒に商品説明を聞く機会を検討している。
- 5) 社員共育委員会(阿部理事) 新入社員フォローアップ研修(9/3 20社参加 同行者20名、社員32名) 毎年参加している企業がレベルアップしている。約半年間、何を教育してきたかがうかがえる。今回は早坂社長の講義、目標シート作成の課題をとおし、今後、人間的な成長をめざしていく。
- 6) 共同求人委員会(玉津理事)
  - ①第1回合同企業説明会(10/15)の参加要請 現在11社がエントリー。目標20社 山形労働局、教育庁、県内のハローワーク、大学、専門学校を訪問した。同友会への期待の高さを感じたと報告。
  - ②第2期低学年インターンシップ報告会の開催(9/25 山形大学にて) 19社の協力のもと、3日間の実習となり、28名の大学生がエントリーしている。
- 7) 事務局員の後任について(青柳副代表理事) 当面は3人体制とし、その後、採用の有無を検討する。現在の事務局業務を分析し、事務局担当と役員担当業務の振り分けをする予定。
- 8) 2015年度 8月月度決算報告(矢作事務局次長)

■承認事項(入・退会承認) 3名入会3名退会 9/9現在会員数 438名

## ■討議事項

- 議題1: 支部所属の見直し(第1次意見集約)について(提案: 青柳副代表理事)  
各支部からの意見をもとに話しあい、7月理事会で提案された第1次(案)とすることが決定した。なお、支部の組織範囲については、支部総会で正式に決定する。
- 各支部申し合わせ事項(確認事項)  
入会を勧める時に、原則として会社所在地、あるいは居住する地域の支部に所属する。また、どの支部の例会への参加は自由であることを説明した上で、本人の意向を尊重する。
- 議題2: 会員増強の取り組みについて(提案: 安藤理事)
  - 1) 2015組織強化・広報・情報化全国交流会(8/26~27)の報告。
  - 2) 500名達成に向け、9月の増強活動、10月増強月間の具体的な行動提案があり、下記の内容が決定した。
    - ①例会ワンゲスト運動の強化 「2015組織強化・広報・情報化全国交流会」の報告を参考にし、各支部に例会へのゲスト参加を募る。
    - ②「元会員」への再入会のお誘いをする。※退会者リスト(過去10年)作成。

- ③山形支部(エリア企業数4564社)の増強活動に力を入れる。 9/19に予定されている「山形支部芋煮会」に、支部役員及び山形支部所属の理事に参加してもらい、増強の機運を上げる。
- ④入会者や入会に繋がる日々の情報を、理事・支部役員にメールで報告・連絡。
- ⑤同一企業からの複数入会者を増やしていく。
- ⑥増強月間は、これまで通り仲間づくりニュースを発行する。
- ⑦組織委員会の参加者を増やしていくために、副支部長に案内する。 \*支部長欠席の場合、代理として副支部長に参加をお願いする。

議題3: 第27回社員教育活動全国研修・交流会について(提案: 阿部理事)

- 1) 開催要項等の確認 中同協社員教育委員会で予算(案)も含めて承認された。
- 2) 役割分担のお願い
- 3) 山形同友会の参加目標(105名)の提案があり承認された。 専門委員会の交流会であること、2日間の参加とハードルが高いが、目標達成にむけての協力依頼があった。

議題4: 北海道東北ブロック支部長・地区会長交流会の取り組みについて(提案: 青柳副代表理事)

- 1) 開催要項 山形同友会として、先進的な支部づくり、企業づくり、地域づくりの取り組みに学び、会員増強につなげていきます。また、第27回社全交の参加要請をします。
- 2) 参加目標数: 20名 各支部から最低 3名
- 3) 参加者: 西塔氏、青柳氏、菅原氏、阿部(和)氏、事務局伊藤 出席予定 \*代表理事名で 各支部正副支部長、幹事、各委員会正副委員長へ参加呼び掛け文をお送りし、西塔代表理事が直接電話をします。

## ■経営体験報告

●報告者: ㈱ティスコ運輸 代表取締役 菅原茂秋氏 ●座長: 高橋 明氏  
\*次回報告者(敬称略)

月	報告者	座長
10月	西塔秀幸氏	
11月	高橋 明氏	庄司 薫氏

## ■その他

- 1) 中同協関連の会議、全国行事について
  - ①第43回青年経営者交流会(9/10~11 山梨) 阿部(和)氏、小川氏、後藤氏、佐藤(知)氏、事務局高橋 5名出席予定
  - ②第18回障害者問題全国交流会(10/22~23 愛媛) 玉津氏出席予定
- 2) 第7回理事会日程
  - 日時: 10月14日(水) 14:00~16:00
  - 会場: 産業創造支援センター 1F マルチメディアホール

## ■閉会挨拶(川合相談役理事)

菅原さんの報告を聞き、スタートは「学び」で、愚直に行動してきた結果、15年前3人で始めた企業が、現在社員数が120名になり、業績も上がっていることにつながっている。

また、中同協の共同求人・社員教育の合同委員会の報告を聞き、社員の成長が企業の発展には欠かせない。当社でも、小学生から大学生のインターンシップを受け入れているが、子どもたちの成長を願って一生懸命関わっている。子どもたちを教育すること、社会人を育てることは地域貢献であり、同友会の活動としてやらなければならないこと。同友会型の企業が増えることが大事だと強く感じた。

## 新会員紹介

◎菅野 寿一氏  
(株)セーフ・ロジック 代表取締役  
メール便発送代行  
山形支部

◎伊藤 真治氏  
(有)イレブン 代表取締役  
飲食店  
山形支部

◎平田 勝越氏  
(有)山形川西産直センター  
代表取締役  
米生産・販売  
置賜支部

同友やまがた10月号(2015年10月1日発行/通巻271号)

From Editor

★9月に親戚の法事があり、住職の法話が心に残りました。それはお釈迦様が弟子に説いた四種類の馬の話、鞭の影を見ただけで走り出す俊馬、鞭に触れて張り出す馬、打たれて走る出す普通の馬、何度も打たれ骨にこたえて走り出す駄馬の話です。★二つめが「六日知らず」。古典落語に出てくる話で、一日、二日...五日と数えるど握り拳ができませんが、六日と数えながら拳を開かない。一旦手にしたものは離したくないということから、極端にケチな人のことをいうのだそうです。新聞記事を紹介し、ある人が物乞いに扮し、富裕層が住む街に立ったが誰もが無関心でただ通り過ぎただけだった。同じように移民の多い街では数時間で帽子がお金でいっぱいになったといひます。お金のあるなしに関係なく、何が大切な

かを考えさせられました。★日本の民主主義が問われ、歴史的な日となった9/19、岩手同友会の代表理事の吉田さんが運営する介護事業「めだかの家」の視察をしてきました。6月の女性部全国交流会、7月の岩手全国総会の見学分科会の報告者です。8年前に、赤ちゃんからお年寄り、障害者も利用できるデイサービスを始め、いつでも誰でも利用できる施設として、生活支援の役割を果たしています。★それぞれの施設は、食事をつくる匂い、音、温もりがあり、普段の生活と同じみんな家族のように暮らしています。老いても、住み慣れた地域で暮らしたいという思いに寄り添い、私ができることはこれとスタートした事業所。入所者の笑顔を見ながら、普通の生活のありがたさが身にしみました。(由)



“知り合い、学び合い、援け合い”  
山形県中小企業家同友会

〒990-2461 山形市南館三丁目26-26 スタジオ・アヴァン 102号  
TEL(023)645-5500 FAX(023)645-5583  
URL: <http://yamagata.doyu.jp/> E-mail: [info@yamagata-doyu.jp](mailto:info@yamagata-doyu.jp)